

令和7年度

すくわくプログラム活動報告書
『光』

(実施対象：1～5歳児)

ひなたの丘保育園

テーマ

光

設定理由

園舎の日当たりが良く、時間帯によって様々な場所から光が保育室に差し込むという特徴を活かし、テーマとして設定する。保育室のなどに映る光や影の存在に気付くことをきっかけに、強く関心をしめしているため。

活動のねらい

光の変化や不思議さを楽しみながら、遊びを深めていく。

対象クラス

1歳児/10名 3歳児/10名 4歳児/12名 5歳児/5名

スケジュール

令和7年4月～令和8年3月

【1歳児クラス】



ここ、(光が)
あった!



手も青い…



動いている!

部屋に差し込んだ太陽の光をきっかけに…

- 窓からの光が保育室の床に差し込んでいることに気付くと、手や足で触れようとし、手や足にもその光が映ることを面白がる。
- 窓にホログラムシートやカラーセロハンで作った装飾を飾ったことで、虹色や様々な色が付いた光が映し出されることに気付く。光と同じ色の玩具と照らし合わせたり、光の加減で色が変わったりすることを面白がる。
- 床に差し込む光に手を伸ばして触れようとした際、黒い影に気付いた。手を動かす中で、自分の手が光の中に影となって映っていることを発見する。手を動かすと影の形も変わることを面白さを感じ、様々に動かして楽しんでいた。

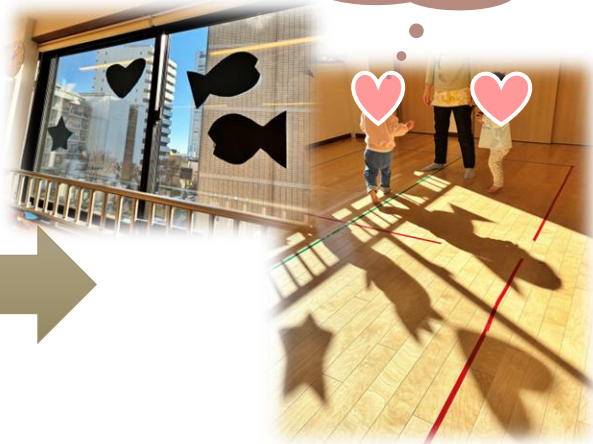
活動のために準備した
素材や道具・環境設定

- ホログラムシートやカラーセロハンを使った装飾
- ブラインドを使って、保育室への光の入り方の調整

子どもたちの育ち

- 自分の気づきを友だちや保育士に伝えようとする姿が見られ、共有する喜びを味わっている。
- ホログラムやセロハンで光に色が付いたことにより、更に興味が深まった。影に気付いた後は、自ら身体を動かすことを繰り返す中で、試すことを楽しんでいた。

光の気付きから影遊びへ…



影がいっぱい…



まる!



この影
飛び越えちゃおう!

- 影の存在に気付いた子どもたちに向けて、保育士が手影絵でキツネの顔を作ると、不思議そう見つめていた。“ハト”や“犬”の手影絵もやって見せると、保育士の手と影を見比べながら真似をして、自分たちの手を動かし、どの様に映るか試していた。
- 窓に様々な形の画用紙を貼っておいたところ、その形が影となって床に映っていることに気付く。型紙を手に取りれるようにすると、自分たちで光にかざし、影として映し出される様子を楽しんでいた。
- 戸外でも影を見つけるようになり、全身を使っての影遊びを楽しむようになった。フラフープやシフォン布の影がどのように映るか試したり、柱の影を遊具のように飛び越えたりと遊びを発展させている。

環境のために準備した
素材や道具・環境設定

- 園内の日が当たる時間帯や場所を事前に調べる
- 様々な形の型紙 ・ フラフープ ・ シフォン布

子どもたちの育ち

- 保育士が手影絵を見せると、その手と影を見比べる姿から、モノと影が関連していることに気付いていることが分かる。
- 不思議な存在であった影が、日常のものとなり、自ら影を使って遊ぶ姿が見られるようになる。また、その面白さを互いに言葉や仕草で伝え合い、保育士と共に子ども同士で楽しむ姿が増えた。
- 保育士の影を追いかけて遊んだことをきっかけに、影踏み遊びを小さな集団で楽しむ姿にも繋がった。



虹はみえるけど、シャワーの水のせいで良く見えない～!!

虹にはどんな色がある？

虹発生装置だって！



ライトの光でも良く見える！



子どもたちの答えは「赤、オレンジ、黄、黄緑、青、紺、紫」

- ・制作した船を飾る背景に虹を掛けようとした際、「虹は何色あるのか」という疑問が湧いた。虹の色を確認するために園庭でシャワーの水を出し、虹を観察して数えた。3色見えたという答えを出すか、もっと多くの色があるはずだという意見が上がる。
- ・図書館に虹の情報を探しに行くと、虹を水と鏡の屈折で作る装置が記載された図鑑を見つける。図鑑を見ながら実際に試してみると、虹の光が安定して見え、「赤、オレンジ、黄、黄緑、青、紺、紫」の7色だと結論づけた。一般的な虹の色とは異なる表現もあったが、子どもたちなりに納得のいく答えが出たようだった。

環境のために準備した素材や道具・環境構成

- ・太陽光&シャワー
- ・光・虹について調べられる図鑑や絵本
- ・虹作りに必要な鏡
- ・洗面器
- ・ライト
- ・メモ用紙
- ・筆記用具
- ・実験結果の掲示スペース

子どもたちの育ち

- ・虹の色が分からず、虹の色について図鑑などで調べるのではなく、本物の虹を見て調べるという方法に辿り着く姿に、発想力の豊かさや、主体性の育ちを感じた。
- ・装置を使って虹を作る方法を見つけると、日当たりの良い場所を探したり、ライトを使ったりと、繰り返し試しながら観察しており、自分の目で確かめようとする探究心が深まった。

プラネタリウムを作りたい！



本当に
星が見えるの？



ペガサス座が
映った！

暗いと
良く見える～！



生活発表会では、子どもたちが
作ったプラネタリウムを映し出し
ながら、星座クイズを楽しみました。

- 虹への興味が続いていたため気象科学館へ遠足に行った際、プラネタリウムを見学した。遠足での経験を振り返ると、プラネタリウムが一番印象的だったようだ。また、虹装置を改良してプラネタリウムが作れるのではないかと提案が上がった。
- 図書館やインターネットで調べ、様々な素材を使ったプラネタリウム制作が始まった。ある程度映り方が分かってくると、今度は実際に見たプラネタリウムを思い出しながら「ペガサス座だよ」と星座を再現したり、「これはアリエル座なの」と、星座を創作し始め、自分たちのプラネタリウムが完成した。
- 生活発表会では、オリジナルのプラネタリウムを保護者に披露している。

環境のために準備した
素材や道具・環境構成

- 子どもの興味に合わせた遠足場所の設定
- プラネタリウム制作の素材や道具（紙皿、ホイル、ライト、暗幕など）

子どもたちの育ち

- プラネタリウムを再現しようとする子どもたちの熱量から、遠足での実体験が非常に印象深く残ったこと、興味を持った上で実体験することの意味を感じた。
- 部屋の暗さによる光の見え方の違いに気付いたり、ライトと映し出す画面との距離を考えたりと、試行錯誤する中で光の特徴を学ぶ姿が見られた。
- 制作は3、4歳児には難しかったが、5歳児が教えたり手伝ったりしたことで、協同しながら作り上げる経験となった。また“自分で作れた”と自信や達成感に繋がった。

全体の振り返り

日常生活の中に当たり前にある光だが、子どもたちにとっては目を引くものである。乳児も幼児も、保育室に差し込む光の反射に対して“綺麗”と感じているようだった。

乳児は、次第に光そのものの変化の不思議さを面白がり、色や影の形などを楽しむようになった。また、自分が働きかけることで、光や影に変化が生まれるため“試す”という探究心の芽生えに繋がっていると感じた。

幼児は乳児期の経験を経て、同じように光を見る中で“疑問”が浮かび、友だちや保育士との対話をしながら探究が始まり、様々な遊びへと発展させる主体性へと繋がっていった。また、虹装置やプラネタリウムの制作に於いては、できるだけ子ども自身の力でやり遂げられるよう、素材や道具を準備するだけで、保育士は見守る姿勢でいたため、“自分たちでできた”という達成感を味わい、自信を獲得する活動となった。

同じ光への興味でも、年齢や発達によって感じ方や遊び方が違うことを改めて認識できた。また、必要な環境設定も大きく異なる。子ども一人ひとりの興味に“どう寄り添うか”ということが職員の学びとなった。子どもたちも、自分の気付きや疑問を他者と共有することで“考える力”“主体性”“人と関わる力”などが育まれていることを感じた。